

生目 1 号墳発掘調査の概要

1. 場所及び期間など

1号墳の場所：宮崎市大字跡江 国指定史跡生目古墳群内（跡江丘陵北端）*資料2参照

1号墳の時代：古墳時代前期前葉（約 1700 年前）

調査期間：平成 25 年 8 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日（予定）

調査面積：約 220 m²

2. 調査の成果

発掘調査の結果、後円部は 3 段に造られていることが明らかになった。また後円部の一部では、古墳の表面を覆う石がほぼ当時の状態まま、非常に良好な状況で確認された。

通常、古墳は斜面部分を「葺石（ふきいし）」と呼ばれる石で覆うが、1号墳では古墳の頂上部分などの平坦な部分も葺石で覆われていた。この古墳全面を石で覆うという特徴は、生目古墳群で共有されており、3号墳、14号墳、22号墳でも確認されている。

さらに1号墳独自の特徴も確認されている。それは「葺石を階段状に積み上げる方法」で、墳丘の斜面に沿って 1 m ほど石を積み上げたのち、20 cm ほどの平坦面を造り、再び斜面に沿って石を積み上げるというものである。この特徴は、今のところ南九州や他の地域でも類例は確認されていない。

前方部の調査では、一部で葺石が確認された。しかし、前方部は後円部に比べて全体的に墳丘の残りが悪く、その形状については今のところ明らかになっていない。また、前方部の頂上部分では、埋葬施設（古墳の主の亡き骸が納められている場所）の可能性のある黒いシミが確認されている。

土器や埴輪といった遺物（いぶつ）については、土器が少量出土しているものの、いずれも1号墳の時期とは異なる（縄文・弥生時代）もので、残念ながら1号墳が造られた時期を知る手掛かりとはなっていない。

生目1号墳は、南九州で最初に 100m を超える規模で造られた前方後円墳と考えられており、南九州における古い時期の大型前方後円墳の造り方を考える上で、今回の調査成果は非常に重要なものといえる。

3. 現地説明会 *詳細は資料4参照

場所：生目1号墳及び生目古墳群サブ駐車場

日時：平成 26 年 2 月 2 日（日）

10:00～13:00（10:00～、11:00～、12:00～の3回実施）

実施方法：事前申し込み、平成 26 年 1 月 24 日（金）17:15 締め切り

定員：各回 60 名（計 180 名）

連絡先：宮崎市文化財課埋蔵文化財係 電話 0985 - 21 - 1836 FAX 0985 - 21 - 1840

4. 生目古墳群の概要

生目古墳群は、宮崎平野の南半、大淀川下流の右岸に位置する標高約 20m の跡江台地上およびその周辺に点在する 51 基の古墳（うち前方後円墳 8 基）からなる古墳群である。

昭和 18 年 9 月 8 日に国指定史跡となり、平成 8 年からは「生目古墳群史跡公園整備事業」に着手、平成 20 年 4 月に「国指定生目古墳群史跡公園」としてオープンした。古墳群の保存整備をより円滑におこなうため平成 19 年 2 月 6 日に追加指定がおこなわれ、現在の指定面積は 142,982.10 m² である。平成 10 年度から開始された史跡整備に伴う発掘調査は現在も継続中であり古墳群の解明が進んでいる。